

秋田で暮らす

移住者の期待と不安

仕事のこと、生活のこと、お金のこと
人付き合い、習慣、風土、気候、健康など…

創刊にあたって

移住者応援マガジンの定住生活へのインタビュー

秋田県に移住して来られた方々が秋田の良さや特性を知り地元への愛着心を育むとともに、地元の方々が移住者への関心を高めて頂けるように、移住者の定住力アップへの応援マガジンを制作発行いたしました。移住定住者の活動状況や暮らしの情報、交流会などの活動の紹介等を掲載しております。

特に秋田県外の出身者にとって移住後の暮らしや仕事等、悩みや困った事など、住み慣れるまでには多くの難関があると思います。この冊子が、そんな移住者への少しでも救いのヒントになればと思います。また、これから移住される方や移住して間もない方にも少しでもお役にたてる事ができれば幸いです。

可能であれば、今後とも継続して発行して行ければと思っておりますので、ご支援の程よろしくお願い致します。



[CONTENTS]

- 01 創刊にあたって 目次…………… 秋田に暮らす元気な移住者の実例紹介(6名)
 - 02 移住者① 吉田紀子さん…………… 仙北市 カフェ&英語教室経営
 - 03 移住者② 高橋了介さん…………… 北秋田市 地域おこし協力隊
 - 04 移住者③ 後藤仁美さん…………… 大仙市 カフェ経営&社会人落語家
 - 05 移住者④ 土屋和久さん…………… 仙北市 個人事業主
 - 07 移住者⑤ 森山大輔さん…………… 三種町 農業
 - 09 移住者⑥ 小田野直光さん…………… 仙北市 地方公務員
 - 11 移住ネタ立ち話コーナー…………… 住んで実感!移住して良かった事
 - 12 初めて雪国暮らしをする移住者へ… 積雪対策の備えあれこれをご紹介
 - 13 仙北市移住者の会の紹介…………… 平成30年度の交流イベントご紹介
- 背表紙 あきくら編集部が選んだ「秋田県の3みたい」

移住者インタビューへLife & Hope

移住先：仙北市

2017年5月 横浜市から移住
年齢◆50代 移住前のご職業◆公務員
移住後のお仕事◆カフェ、英語教室経営

01 吉田 紀子 さん



「移住前と後での暮らしの変化で大きかった事は?」

「きりぎりしに起きて、出勤の準備をし、朝ごはんも食べずに家を飛び出す」そんな生活を30数年おくりました。通勤の途中、犬を散歩させている人などを見かけると、のんびりしていいなあと思いました。娘たちが中学の頃はお弁当作りもあり、いったいどうやっていたのか、奇跡的に乗り切った現在にいます。

現在の武蔵野のアパートでの朝は、のんびりして、8時10分ころの学校のチャイムを遠くに聞きながら起きます。あのチャイムに追い立てられていた自分を懐かしい気持ちで考えます。ゴミ捨てをしにいくと、捨て場所のすぐ横にマリーゴールドの花壇があります。大きくなってきたなと思ったり、松ぼっくりを拾ったり、たまにグラウンドを走ったり、山を見たりします。こんなにのんびりした生活は、小学生以来かもしれません。

「移住前の予想と違っていた事は?」

「趣味のサークルや地域活動の豊かさ」

地域の皆さんの様子を見てみると、80代の方が活き活きと趣味のサークルや習い事などを楽しんおられます。公民大学の素晴らしい活動、グラウンドゴルフ、カラオケ、合唱、俳句、短歌、民謡などなど、やりたいことがあったら地域の方に相談すると必ずしっかりと運営されているサークルや地域活動を教えていただけます。これは、意外に都会では難しいことだと思えます。なんでもありそうですが、いっぱいありすぎて、どこに属したらいいか、迷っているうちに億劫になりそうですし、また費用も高価です。仙北市ですとなんだか、安心してまた、楽しく活動に加えていただけたらいい感じになります。



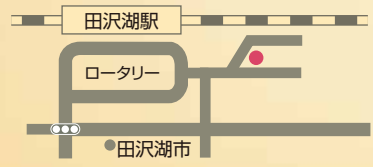
私は、生保内節を習いたいです。少し慣れてきましたら、西馬音内盆踊りをやりたいです。公民大学で陶芸もいつか習いたいです。俳句、ロードバイク、テニス、フラダンスは一人で行くか少しづつかと思っています。このように、やりたいことに取り組める環境にわくわくします。

「現在の仕事や活動など取り組んでいること」



隠れ家カフェでホッとひと息 Cafe モロビ

◆田沢湖駅から徒歩1分 ◆定休日 月曜・火曜
◆営業時間 10:00 ~ 18:00



私は現在、田沢湖駅前にてわずか八席の小さなカフェを運営しています。2019年の2月で1周年になります。水曜日から日曜日の朝10時から夕方18時までの営業です。地域の方々、旅行の方々もホッと息つける場所として使ってもらえるように、日々何か新鮮さを加えられるように工夫してまいりたいと思います。地域の中で、このカフェが、他のどのような役割を担えるのかは模索中ですが、営業を続けることにより何かしらの価値を地域に加えることができるようになったらいいなと思います。

移住先：北秋田市

2018年2月 横浜市から移住
 ◆年齢 40代 ◆出身地 東京都足立区
 ◆移住前のご職業 ダーツバー勤務



「僕が移住したキッカケ」

移住する前は、ずっと神奈川県に住むのだと思っておりました。私の妻がずっと酒造関係の仕事に就きたく、僕に内緒(笑)で色々と県内外の酒造メーカーへ履歴書を送っていたそうです。

しかし、蔵元や杜氏は男性でなければならぬこの理由で、断られていました。偶然、北秋田市の地域おこし協力隊の募集要項に「どぶろくの製造・販売」がありまして、私も僕に内緒で応募しました。

後日、妻から「協力隊の募集でマタギ文化継承もあるんだって」と話しをされ、自分なりに色々マタギに関して調べていく内に、マタギ文化に魅了されました。また、「マタギ文化も高齢者社会により継承者がいない為、苦境に立たされている」との情報もあり、「マタギ文化を継承してみよう」と妻に応募する旨を話し、無事、地域おこし協力隊として北秋田市へ移住することになりました。

地域おこし協力隊やどぶろく・マタギが無かったら、移住はしなかったと思います。

「印象」
 皆さん初めまして！北秋田市の地域おこし協力隊、高橋了介（たかはしりょうすけ）と申します。実は、プロダクトプレイヤーの二面もありまして、現在、プロダクトナーメント perfect に所属しております。

また、平成30年に狩猟免許・猟銃所持許可を取得しました。この冊子が出る頃には、猟期は終了し有害鳥獣駆除の隊員として活動している頃だと思います。

現在、マタギ見習いとして色々忙しいですが、マタギとプロダクトの二足の草鞋を履きつつ協力隊の任期終了後も地域に貢献出来ればと思いますので、どうぞ、宜しくお願い致します！



「移住前と後での暮らしの変化」

移住前は神奈川県横浜市に住んでおりました。やはり都心部なので、夜も外は騒がしく、私自身も就寝する時間がかなり遅かったと思います。また、近隣住民のプライバシーの問題もあり、かなりギスギスしていたと思います。

しかし、秋田県へ移住しました所、プライバシーが良い意味で殆ど無く、子供達も学校の友達と元気に外で遊んでおります。また、子供の学校では、イジメもなく、クラスの皆の名前を覚えるのが大変なくらい、友達が増えたと大喜びしております！秋田県へ移住してから、夜が早いので就寝時間も併せて早くなりました(笑)

「これからの目標や挑戦」

おかげ様で、任期終了後は阿仁合へ引っ越し事になっております。(なんと！地元の方から土地と家を頂いちゃいました！)

阿仁合でダーツバーを出せればと思っており、現在阿仁合ではWarrock「ワロック」というのが流行っておりますが、ダーツも流行らせたいと思っております。阿仁合は歴史上、様々な文化が根付いた場所でもあるので、ダーツバーも根付けばと思っております。

◆移住後のお仕事
 現在、地域おこし協力隊

「協力隊任期終了後はダーツや狩猟関連に関わればと思います。」

03

後藤 仁美さん

移住先：大仙市
 2014年8月 千葉県船橋市から移住
 ◆年齢 30代 ◆移住前のご職業 会社員
 ◆移住後のお仕事 自営業



移住したキッカケは何ですか？

私は小さい頃から女優になるのが夢でした。20代も半ばに迎えたころ、その夢を追いつづけていることに少し悩み始めました。

知人に冬なのに良い花火大会があるから一緒に行かないかと誘われて行ったのが、長野県のえびす講の花火大会でした。この時の花火を見て私は、「花火って一夜にしてこんなに大勢の人を感動させることが出来るんだ。エンターテイナーはこうでなくちゃいけない。」と思ったのです。その時から花火にのめり込むようになり、日本中のいろんな花火大会へ足を運ぶようになり、そのうちに大曲の花火大会へ訪れるようになり、日本の花火大会があるこの地に住んでみようと思ったのがきっかけです。

移住前の予想と違っていた事は？

とにかく花火大会のある町に住んでみたいと言っただけで、住んでから何か仕事をしようと考えていました。

千葉に住んでいた頃は、車の免許を持っていませんでしたので、移動は自転車か交通機関を利用してました。秋田がこれだけ車社会だったことに、移住当時は正直驚きました。私も移住してから二年経って車の免許を取ったのですが、今では免許を持ってなかった頃、どっやって生活していたのか不思議に思う程です。

現在の仕事や活動など取り組んでいること

現在はJR大曲駅西口でプラスカフェと言つ喫茶店を経営しています。

実際移住してみると、大仙市は人口減少の問題が大きく取り上げられており、移住者の私に出来ることは何かと考えました。千葉から大曲の花火大会へ来ていた頃は、駅前にカフェが無くて不便を感じていました。そこでバリスタの経験を生かし、喫茶店を始めることにしました。

県外から来て下さる出張の方々や、観光の方々に駅での待ち時間を有意義に過ごして頂きたいと思っております。地元の方々には普段の生活に少しでもプラスになってもらえたら幸いです。

また仕事以外に、社会人落語家としても活動しています。

本人に移住後の生活費について聞きました。

生活費の中で負担に感じる出費を3つあげて下さい。

住まいの修繕費
 水道光熱費
 保険料や租税

生活費の全支出100%として、各支出の占める割合

- ・食費や日用雑貨 ……20%
- ・水道光熱費 ……10%
- ・保険料や租税 ……5%
- ・車など移動交通費 ……5%
- ・趣味や活動交際 ……10%
- ・家賃等の賃料 ……20%
- ・その他 ……30%



プラスカフェ 大曲駅店

◆JR大曲駅徒歩 10秒
 ◆営業時間 通常 9:00 ~ 19:00



ます。地域の方々に少しでも笑いを届けることを続けて行かれたらうれしいです。

移住先：仙北市

2010年2月 横浜市から移住
 ◆年齢 / 60代 ◆出身地 / 静岡県
 ◆現在の家族構成 / 夫婦2人

土屋 和久さん



◆移住前のご職業 / 建築設計事務所主宰
 ◆移住後のお仕事 / 個人事業主
 (イベント企画運営・野菜類生産販売・他)

「移住前と後での暮らしの変化で大きかった事は？」

「窮屈で苦しい生活からの解放」
 移住して9年近く経つた今になって思えば、首都圏での暮らしや仕事は、ひと言では語りつくせない辛い思いの方が圧倒的に多かった気がします。秋田の閑静な田舎に移住した後は、あの頃の窮屈なストレスいっぱいの生活から解放され、のびのびとストレスのない毎日が送れているおかげで、今は心身共に健康になりました。雪にはまったく縁のない地域で人生を過ごしてきた私にとって、雪国での生活は初めての事ばかりで戸惑いでしたが、3年ほど過ぎたあたりから、なんとか雪にも慣れ除雪を楽しめるようになりました。そして何よりも、一年中を通して今まで経験したことのない四季の変化の大きさが、毎月・毎週・毎日でも周囲の環境の変化に刺激を受けられる暮らしを楽しめています。一年中変化のない窮屈な都会でのマンション暮らしでは

出来なかつたいろいろな事を今では自由に行っていることに改めて幸せを感じます。たとえば、自分の畑で栽培した野菜を頂く食事、誰にも気兼ねなく庭でバーベキューができること、夢にまで見た大型犬との一緒に暮らし、そのまま飲める美味しい水道水、毎日でも近所の温泉に入れること、などなど。
 ただ、都会暮らしに比べて、仕事も収入も少なくなつて経済的に厳しいことは否定できませんが、人間としてより自然な営みができてストレスのない生活が出来ている今の方が圧倒的に幸せ感を得られています。お金の蓄えを増やすことはできないけれど、毎日食事ができて家で寝泊まりできるくらいに生活ができれば満足だと思えるようになった心の変化が大きかったです。



「現在の仕事や活動など取り組んでいる事は？」

2010年2月に移住してからちょうど1年を過ぎた頃、あの東北大震災という、あまりにショックな出来事に遭遇しました。私の地元である田沢湖周辺の宿泊施設でも宿泊客の激減により経営危機に陥り、地域全体の元気がなくなっていました。家庭菜園をしながらのんびり田舎暮らしをしようと思っていた私にとって、この大震災が今後の移住人生をガラッと変える転機となりました。

震災があった年の夏を過ぎた頃に、私は地元で元氣を取り戻そうと奮起し、湖・山・温泉の地元田沢湖の観光資源をモチーフとした、ご当地キャラクターの「オモテナシ3兄弟」をプロデュースし、イベント企画運営や各地のお祭りなどに参加し観光PR等を行う事業活動を始めました。当初の1年半ほどは補助金事業として活動させて頂き、その後は個人事業として活動を続け、気がつけば数年間があったという間に過ぎていきました。そして今では「オモテナシ3兄弟のパバさん」などという肩書と呼ばれ、イベントに出演したり、地元のお祭りのステージ企画や司会をしたりと、楽しく活動させてもらっています。加えて、当初の活動時から、「ミニミニFM局」「橋台エフエム」でのパーソナリティも務め、今でも月2回ほどラジオでお喋りさせて頂いております。

そしてもう一つ、毎年のライフワークになっている仕事があります。5年ほど前から私の住む集落の特産物である伝統野菜の「田沢ながいも」の生産販売にも取り組んでいます。生産できる土壌が田沢地域の一部エリアに



限定され生産化ができないため、ほとんど市場に出回ることなく、入手が困難な希少価値の高い伝統野菜です。しかも年々生産者も少なくなつてきて生産量も減っていることもあり、なんとか絶やさないように、多くの方にも食べて頂けるように私も長いも畑を借りて、地元農家の方に教えて頂きながら生産を始めました。そして今では、地元の宿泊施設や飲食店、直売所や秋田市内の市場からも予約を頂き出荷できるまでになりました。収穫時期には収穫体験も企画実施したり、秋田の伝統野菜の良さを知ってもらえるように、これからは田沢ながいもの生産や伝承活動を通じていこうと思っております。

出身地ではない地域に移住して住み続けているには、地元の方々と交流や移住者相互の交流が大きな支えになることを実感したことから、2017年2月に「仙北移住者の会」を設立し、年に数回集まって昼食会を兼ねた懇親会や交流イベント等を行ってまいります。
 今後は、移住者の会を通じて地元の方々と移住者の方々とネットワークを広げて、秋田への移住を決めかねて悩んでいる方や秋田に移住して間もない方などのための相談窓口になつたり、仕事や個人事業への支援力になり、定住成功への鍵となるように活動して行きたいと思っております。

FM橋台(79.6Mhz)のラジオ番組「あきたおもへどトーク」の移住者ネタランキング

毎月最終月曜日AM9:00から生放送で毎回紹介している「秋田県に移住して感じた、あんなこと、こんなこと〜ベスト5」今まで3年以上放送したものの中から2つをご紹介します。(これはあくまでも雪国暮らし初めてのパーソナリティの土屋個人が独断で感じたことです。)

雪に不慣れな移住者への雪国生活の心構えベスト5

- ⑤冬には車のタイヤを冬用に交換する
- ④積雪対策用の必需品を揃える・戸建てには除雪機
- ③水道が凍るので、水抜きや水落としが必要
- ②屋根の雪下ろしの必要性和危険性
- ①家の中でも流しの水や窓の結露が凍る

移住して変わっているな〜と感じたことベスト5

- ⑤信号機が縦に並んでいる
- ④変わった方言の難解な秋田弁
- ③床屋と美容院が異様に多いこと
- ②道路沿いでアイスを販売している(パバハラ)
- ①テレビCMに学校の修学旅行の安否情報が流れる

FM橋台ラジオパーソナリティ 土屋和久

- 毎月最終または第一月曜日AM9:00からと
- 毎月中旬の木曜日PM13:00からの2回土屋が担当

リクエスト曲などメッセージをFAXで番組宛又は土屋宛にお送りください。FAX:018-881-3091
 電波が入らなくてもインターネットでパソコンやスマホからでも聴けます。



仙北市移住者の会ホームページ
<https://senbokujiyusha.akjob.jp/>



ご本人に聞きました

①移住後の暮らしの満足度は？

・仕事面………少し不満
 ・人付き合い面………大満足
 ・住まい面………やや満足
 ・生活面………大満足
 ・経済面………少し不満
 ・総合的に………大満足

②移住後の暮らしの生活費の中で、負担に感じる出費は？

・水道光熱費(灯油代)・保険料や租税
 ・車代や移動交通費

③生活費の支出割合は？

・食費や日用雑貨………20%
 ・水道光熱費………20%
 ・保険料や租税………20%
 ・車など移動交通費………30%
 ・趣味や活動交際費………5%
 ・家賃等の賃料………0%
 ・その他………5%

イベント企画運営
 & 田沢ながいも生産
A&K工房



移住先：山本郡三種町

2013年3月 東京都中野区から移住
 ◆年齢/50代 ◆出身地/宮城県仙台市
 ◆現在の家族構成/妻・子ども3人(中3、中1、小4)

森山 大輔さん



◆移住前のご職業/会社員
 ◆移住後のお仕事/農業

移住したきっかけは何ですか？

東京で外資系金融機関に勤めていた2008年にリーマン・ショックを経験。経済の拡大を追い求めることの限界を感じました。

子どもがいたこともあり、次の世代に引き継げる本質的な価値を大切にしたい。持続可能な働き方、暮らし方を模索するようになりました。はじめのうち妻は本気にしてくれませんでした。2011年の東日本大震災を機に妻も暮らし方を見直すようになり(妻も仙台出身でした)、新たな舞台として出身地の東北、中でも土地に根ざした豊かな文化が残る秋田を候補として具体的な計画を立て始めました。



移住前と後での暮らしの変化で大きかった事は？

移住前までは都市での暮らしでしたので、農村地域のコミュニティの一員になるのは初めて。地域の人の距離の近さ、つながりの強さに驚かされました。はじめは距離感がつかめずに戸惑いましたが、思い切って入り込んでしまえばこれほど居心地のいいところはないと感じています。

他人事がないのが農村の地域コミュニティの凄さだと思います。以前、田んぼの稲刈りが遅れていた時に

現在の仕事や活動など取り組んでいること

移住後は有機野菜の宅配農家として働いていますが、想定外の事だらけで経営面は大変です。仕事としての面白さは最高なのですが……。



は気になって仕方ないといわれ、大勢で稲刈りを手伝ってもらったこともありましたが、これが象徴的な出来事でした。
 お金の面では収入は激減しましたが、消費する機会も激減しているので、ひもじさを感じません。都市生活でいかに消費させられていたのかを実感します。子どもの教育費だけは同じようにかかるのでそれだけは懸念事項ですが。



地域のコミュニティと共に暮らす

いづくために移住者なりの役割があると思ひ、できることから頑張っています。秋田県内の他の自治体同様、三種町も少子高齢化により多くの課題を抱えています。移住者だから気づけること、発言できることがあると感じています。
 はじめの頃は獅子舞や盆踊りなどの伝統行事、地域の共同作業等に積極的に関わりました。このことで地域を知ることができ、コミュニティの仲間入りもできたと思います。

地域に馴染んでからは、地元の方と一緒に世代間交流の会を立ち上げてイベントを開催したり、田んぼイベントを開催して昔の田植え唄を復活させたり、主体的な活動もできるようになりました。先輩移住者として移住者受け入れにも取り組んでいます。
 人口と財源が減っていく中でも町や地域を持続可能な形にするべく、現在移住者が中心になって住民自治を担う地域NPOを立ち上げる準備を進めています。



ご本人に移住後の暮らしについて聞きました。

①移住後の暮らしの満足度について

- ・仕事面……………やや満足
- ・人づきあい面……………大いに満足
- ・住まい面……………大いに満足
- ・生活面……………大いに満足
- ・経済面……………少し不満
- ・総合的に……………大いに満足

②生活費の中で負担に感じる出費を3つあげて下さい。

- 水道光熱費
- 保険料や租税
- 車代や移動交通費
- 将来の子供の教育費

③生活費の全支出100%として、各支出の占める割合

- ・食費や日用雑貨……………20%
- ・水道光熱費……………10%
- ・保険料や租税……………20%
- ・車など移動交通費……………15%
- ・趣味や活動交際費……………5%
- ・家賃等の賃料……………7%
- ・その他……………23%

06 小田野 直光さん

移住先：仙北市
 2016年4月 東京都三鷹市から移住
 ◆年齢 / 50代
 ◆現在の家族構成 / 夫婦



◆移住前のご職業 / 団体職員
 ◆移住後のお仕事 / 地方公務員（仙北市）

「移住したキッカケは何ですか？」

「田沢湖に心を奪われました」

私の実家は、角館ですので、定年になったら実家のある角館に戻ろうと漠然と考えていました。その後、門脇仙北市長から田沢湖の湖底調査のお話をいただき、平成27年9月下旬から10月上旬まで、前の職場の事業として、2週間、田沢湖の湖底調査をすることになりました。

田沢湖の湖底調査では、述べ6日間、朝7時〜夕方16時頃まで、ずっとボートに乗船し、水質、地形調査の他、水中ビデオカメラを投入した湖底観測等のメニューをこなしておりました。実は、その6日間は、奇跡的に晴天で、最終日の2時間だけ、強風で苦勞しました。

したが、田沢湖の中心から、秋田駒ヶ岳を含む山々を湖周すれすれの目線から見ると、得難いものでした。田沢湖の湖面の色は、日光の差し加減で、刻一刻と変化し、また、湖畔からは決して見るのできない、様々な田沢湖の姿を見ることができました。この調査の半年前、私が角館に将来戻ることについて父が亡くなりました。この調査の期間中、様々な思いが去来しましたが、調査のまとめを報告するために仙北市を訪ねた11月には、一切の迷いもなく、仙北市で仕事をさせていただきたい思いを関係者に伝えることができました。なぜ、このような行動に出たかは、今でも、自分でもよくわかりません。田沢湖の美しさに心を奪われたということかなと思っています。しかし、後悔はありません。



「移住前と後での暮らしの変化で大きかった事は？」

「夫婦で心身ともに充実した生活」

移住前と後での大きな変化は、家族への向き合い方だと思っています。東京で暮らしていたときは、慢性的な仕事中毒でしたので、恥ずかしながら、家庭のことを気にしたことはありませんでした。

移住後は、当たり前ですが、一緒に秋田に来てくれた妻とともに、買い物や県内めぐりを楽しんでいます。今でも、仕事中毒は解消されていますが、家族のために時間を割こうという気持ちが湧いたのは、20年以上なかったのではないのでしょうか？

秋田は、自然が豊かですので、自然と親しむ機会も増えました。登山は、7〜8年やっています。秋田駒ヶ岳がすぐそばですので、何回か登りました。また、スキーは25年振り位でチャレンジしました。また、きれいな景色（山、湖、紅葉、雪原など）を見ながらのジョギングも、秋田に移住しなければ得られなかったものです。私自身も、仕事以外に、楽しめることができたことは、東京での生活の中では、考えられなかったことです。

妻も、秋田での生活を楽しくしており、地元のみならず、合唱、手芸、郷土史の勉強など、私以上に忙しい日もあるくらい、仙北市を楽しんでいます。東京では、買い物以外、家からでなかった日も多かったのですが、移住後は、充実した日々を過ごしています。

「現在の仕事やこれからの目標など」

「仙北市のお役に立てれば幸いです」

仕事では、現在、地方創生を担当させていただいています。地方自治行政の業務に携わることには初めてでしたが、同僚に恵まれ、これまでの仕事の経験も活かしながら、なんとか仕事をさせていただいています。仙北市の発展に貢献できるように精進したいと思います。

個人的な目標としては、仙北市の市指定文化財の「武家屋敷小田野家」の活用について、しっかりと向き合っていきたいと考えています。

祖父が角館を離れて約40年になりますが、その間、旧角館町、仙北市教育委員会の皆様に、維持管理を任せきりでしたが、私自身もしっかりと関与し、文化財を活用したまちづくりに貢献したいと考えています。そのため、昨年からは、戸澤嗣郎先生が代表となっている角館の古文書勉強会に入会しました。月2回のペースなので、まだまだ自力での読解は不可能ですが、定年までには、なんとか読めるようになりたいと考えています。

また、昨年11月からは、角館大弓会に入会させていた

だき、弓道もはじめました。仕事はもちろんですが、しっかりと自分の心に向き合う時間も必要だと考えています。

現在は、セカンドキャリアとして、地方自治に全身全霊を傾けていますが、定年後のサードキャリアでも、しっかりと地元で貢献できるよう、様々な面での基礎体力を備えていきたいと思います。



ご本人に聞きました

①移住後の暮らしの満足度は？

- ・仕事面……………やや満足
- ・人づきあい面……………やや満足
- ・住まい面……………少し不満
- ・生活面……………普通
- ・経済面……………普通
- ・総合的に……………やや満足

②生活費の全支出100%として、各支出の占める割合は？

- ・食費や日用雑貨……………10%
 - ・水道光熱費……………4%
 - ・保険料や租税……………15%
 - ・車など移動交通費……………4%
 - ・趣味や活動交際費……………6%
 - ・家賃等の賃料……………15%
 - ・その他……………46%
- (お子様への仕送り)



移住ネタ

立ち話コーナー

観光客で遊びに来ていた時には気が付かなかった、秋田の閑静な田舎暮らしの中で実感した移住して良かった事ベスト5



5 自然の水・飲み水が豊富で、新鮮でおいしい

私の家の集落は近くの沢水を水道水にしているので、水道の水をそのまま飲んでも美味しいし、家の周りの側溝や川の水が飲み水のようにきれいな事に感激。近所で採れたお米を玄米で購入して、毎回食べる時に精米して食べる。そのお米が育った水と同じ水で炊くご飯が最高です！



4 雪国だからこそ味わえる四季の移り変わりの刺激と感動

観光で一時的に来るだけでは決して体験できない雪国の四季のサイクルの中の暮らしは最高です。秋から雪が降り始め、深い積雪シーズンに耐え、雪解け→春になったときの喜び→そして桜、新緑、畑作り→活動的な夏→そして野菜の収穫から秋の紅葉へ続く、という、しかも日本一深い湖の田沢湖がある雪国での四季の景色の移り変わりに、毎年刺激と感動をもらえる楽しい暮らしは、都会では決して味わえません。

3 ほどいい人口密度の薄さが心地よい生活

都会ではどこに行っても人混みで、群がる人々に耐えられず心が押しつぶされます。電車もバスも満員、スーパーのレジは長蛇の列、公衆トイレは順番待ち状態、慢性的な車の渋滞、など…

それに比べて、少しさみしいくらい秋田の田舎は、逆に人恋しくなって、人を見かけると嬉しくなります。人がゆつくり動いていて、人に急かされる事が無く、心に余裕ができます。

車の渋滞は皆無で運転にストレスが少ないし、駐車場の心配をせずに出かけるの嬉しさ。ストレスのないこの住環境に慣れてしまった今は、もうあの人混みの都会暮らしには戻れません。



2 秋田の人の良さや温かさに安心して暮らせる

移住して最初の頃は地元の方の話す言葉がまったく聞き取れない上に、ぶっきらぼうで愛想がなく接しにくい面がありました。しかし、数年たつて仲良くなってくると、本来の秋田人の正体を知り、人の良さがわかると安心して暮らせるようになりました。ぶっきらぼうで乱暴そうに聞こえる秋田弁にも愛着が湧き、自分の売込みは手だけれど、無欲で八方美人ではなく、中身が素敵な人が多い。ギスギスした都会の人間関係で苦しん

だ私にとっては、今は気兼ねなく暮らせて、言ってみればパラダイスの世界です！

1 周囲に自然がいっぱい、毎日が観光客気分

移住してつづき9年になりますが、観光気分はまだまだ飽きがきません。当初は2〜3年もすれば飽きるだろうと思っていましたが、今だに機会があれば車で観光周遊・時々入る近所の温泉に癒されます。私の住む田沢湖エリアは、観光シーズン(桜や紅葉など)以外にも四季の変化、静かな自然に囲まれた景色を毎日眺められて、一年中毎日が観光客気分です！



以上の事は、地元で生まれ育った方々にとっては当たり前の事でしょうが、初めて暮らし移住者には今までのない感動的な事が数年たつてもまだまだ多々あります。

初めての雪国暮らし

移住者目線で知って得するピックアップ情報
積雪対策の備えあれこれを紹介！

雪に慣れていない人が秋田に移住してきた場合、初めての雪のある冬の暮らしにビックリして困ることが沢山あります。(雪国暮らし初体験の筆者が経験した事から、雪対策のいくつかを紹介)

雪のシーズンでの車の装備や運転について

まずは、雪道は想像以上に滑って何もできない状況になって怖いことを知っておきましょう。

- ① スタッドレスタイヤを購入して、雪のシーズン前にタイヤ交換しておくこと。
- ② ワイパーは冬用のものがあるので、冬はそれに変えること。雪国暮らし未経験者は冬用のワイパーがあることすら知らない！
- ③ 車体の雪の除雪用にハケを常備する。
- ④ 出かける前に車のエンジンをかけて温めておくために、遠隔



①スタッドレスタイヤ



②冬用のワイパー



③除雪用のハケ



④遠隔操作のスターター

- 操作のスターターを付ける。
- ⑤ 車体の下に融雪剤がついて錆びるので、下回りを防錆コーティングすると良い。
- ※少し慣れた頃が一番危ないんです
- (ふとした気の緩みでスリップ事故になるので注意！)

積雪対策のための必需品が結構いっぱいある

雪のシーズン前になるとホームセンターにいろいろ販売出展されるので、必要な道具は購入して用意しておくことが重要。初めての移住者には何か必要かわからないので、できれば地元の方に何が必要か・どうやって使うものかなどアドバイスをもらうとよいでしょう。敷地が広い場合には、家庭用の除雪機が必要になります。他にも私がおススメする積雪対策の必需品をいくつかご紹介いたします(雪国暮らし未経験者は知らないだろうグッズ)



除雪機(エンジン付)



ママさんダンプ(スノーダンプ)



厚手のゴム手袋(中が暖か)



丈夫な長めの長靴



雪用シャベル



足元用カイロ

屋根の雪下ろし・積雪対策の屋根について

雪国暮らし未経験者は見たこともなかったことなので、危険性もわかってないと思います。雪下ろしの方法・道具など、地元の方からのアドバイスは絶対が必要です。地域によっては、屋根の雪下ろしボランティアもいますし、有料の業者さんにもいるので依頼も可能。屋根の雪下ろしをしなくてもいいように、雪が滑り落ちる屋根の素材にしたり、数年ごと定期的にサビ落とし塗装をするのがよいでしょう。

家の中でも水道や窓の結露が凍ること

家の中の水道管には保温対策・凍結防止用電熱線を巻くなどの対策が必要です。一般的な水道の凍結防止方法には水抜き・水落とし(水抜き栓)というものがあります。水抜きとは水道の凍結を防止するために、立上り管や横走り管の手前に取り付けた水抜き栓から水を深い地中に排出することで、私も移住して初めて知りました。窓には結露対策をすることをお勧めします。例えば、改修するなら二重サッシにする等(ペアガラスでもOK)。私の家では、冬は雨戸を閉めておけばいいです。雨戸の上部がガラスになっていて光が入ってくるので、部屋は暗くはなりませんし、結露はほとんど発生していません。

私のビックリ体験のひとつとして、冷蔵庫の中に入れておけば凍らない、逆に冬は冷蔵庫に入れなくても冷凍ができる、という笑い話のようなことが実際に起きることにビックリしました。

仙北市移住者の会のご紹介

仙北市移住者の会の設立

秋田県外から仙北市に移住して暮らしている方々相互の交流や地元の方々との交流をもっとより多くの移住者の方に広めて、親睦を図りながら協力しあえる場となるよう「仙北市移住者の会」を2017年2月に設立し、年に数回集まって昼食会を兼ねた懇親会や意見交換会、イベント等を実施して活動してきております。

移住者の会の役割

移住者同士の交流がお互いの助けとなり、定住力を高めることとなる！

移住者にとって、最初は不安がいっぱい、孤独で心細いものです。移住者だからこその悩みなどは、なかなか地元の人に理解してもらえず、相談もできません。そんな時に、同じ境遇の先輩移住者に悩みを相談できる交流の場があると、心強くもあり、同じ悩みを共有できているという安心感も生まれます。

交流会の良い所は、そこで知り合った移住者同士がお友達になって、プライベートでも会ったり連絡を取り合ったりできることで、これが重要ポイントになると思います。

移住者の会を通じて地元の方々とのネットワーク作りが仕事においても成功への鍵となる！
知り合い無し、仕事なし状況からの脱出には、まずは多くの地元の知り合いをつくるのが重要ポイントです。



仙北市移住者の会ホームページ <https://senbokuiijyusha.akjob.jp/>

多くの地元の方々とネットワークをとれる環境は仕事や個人事業への大きな力となります。移住者の会では地元の方がとの交流も積極的に取っていきたく思っています。

移住者の会に参加しませんか？

お問合せ先 代表 土屋和久
夫婦で2010年2月に横浜市から仙北市に移住。

詳細は移住者インタビューNo.04をご覧ください。

電話には出られない時もありますが、ご了承ください。メールであれば1日1回は必ず見るので、連絡可能です。

電話：090-3334-0260
メール：tazawakokougen@akjob.jp
※メールの場合は、パソコンからの返信メールが届く機器からお願いします。

本会への入会資格等について(抜粋)

- ①秋田県外から仙北市に移住して暮らしている方、または移住したいと考えている方。
- ②地元の方でも支援者として個人・団体問わず準会員として入会できる。
- ③原則として、ご夫婦・家族での入会。ご夫婦のどちらか一方でも移住者であればご夫婦2人での入会となる。
- ④入退会は随時自由です。
- ⑤入会の年会費は無料。交流会やイベント等の開催時に、飲食代・会場費など実費相当分の参加費を徴収して活動しております。

平成30年度の交流イベントご紹介

秋田の特産ふれあい巡りバスツアー

秋田の良さや特性を知り、地元への愛着心を深めてもらえればという事で、9月30日に秋田県内の主な特産地・観光地をピックアップして、日帰りのバスツアーを行いました。



今回のツアーは仙北地域から県北地域までを北上して八幡平周辺の紅葉を楽しめながらのコースを設定しました。

秋の野菜・工芸品・阿仁のマガギなどの特産物巡りと温泉の日帰り入浴も楽しめる懇親会も行いました。

バスの中でも交流を深め、支援者や移住者仲間との情報交換ができる機会にもなりました。

参加者14名(移住者と地元支援者)

伝統野菜「田沢ながいも」収穫体験会

秋田の伝統野菜である長いもを実際に掘り出す収穫作業の体験会を開催しました。

11月3日および4日の2日間に振り分けて実施。参加した皆さんは時間を忘れて初めての長いも掘りに挑戦していました。収穫した長いもは、お土産に持って帰って頂きました。

場所は、仙北市田沢湖田沢の長いも畑(見附田)
参加者3日は6名、4日は8名でした。



11月3日に参加のみなさん

11月4日に参加のみなさん

秋野菜を使った料理教室と試食会

11月23日(金) 祝日には、地元秋田で採れた秋野菜を使った料理教室と試食会を行いました。使用した主な秋野菜…長いも、ムカゴ、さつまいも、ごぼう、椎茸、じゃがいも、等用意したレシピは7種類

講師とレシピ考案は、高堂路子先生
参加者18名



開催場所：秋田拠点センターアルヴェ4階の調理室および和室
道具も設備も完備されているので、当日は新鮮な食材と消耗備品を用意しただけで、スムーズに料理教室を行うことが出来ました。



料理教室はお昼過ぎに終了。皆さんお腹を空かせていたので、試食会では大量に作った並んだ料理をみんなで美味しく完食しました。試食会の後半ではサブライズで楽しいマジックショーが登場しました。

全てのメニューが今回のために考案された秋野菜を使ったオリジナルレシピです。



八幡平ビジターセンター



鹿角観光ふるさと館



懇親会前の楽しい演芸タイム



大館能代空港



阿仁マガギ資料館
マガギコーディネーターによる案内も大好評！



ツアーの最後は懇親会で移住の話題で盛り上がり
(休暇村乳頭温泉郷)